

## 令和4年度看護系大学教員向け課題解決型研修 実施要項

### 1. 開催の趣旨と目的

世界中が大きな変化の波に飲み込まれる中、看護系大学は、医療人養成機関としてさまざまな対応を迫られました。これを機に、当センターでは、従来の集合型の研修形態を見直し、昨年度から、参加者相互のピア・コンサルテーションを主体とした課題解決型研修へと大幅にリニューアルいたしました。ピア・コンサルテーションとは、利害関係のない研修参加者が、相互に刺激し支援し合いながら、自組織や自身の課題を俯瞰的に見つめなおすことを指します。

看護系大学教員向け課題解決型研修は、解決したい組織課題を持ち、看護の目的（対象者が自ら力を発揮しながら望む場所で生き、生活することを支援する）を共有している看護系大学教員を対象とし、すべてオンラインで行う、出力型の研修です。

研修では、看護系大学教員がグループを形成し、相互に刺激し、支援し合いながら、自組織や教員自身の課題を俯瞰的に見つめなおす機会を提供します。そして、看護の対象者・看護学生・看護教員・所属組織・地域それぞれの力を発見し、それらが最もよく発揮された調和的な状態（ありたい姿・目標像）を思い描き、その目標に向かって課題を解決する方略を検討し、実行するプロセスを支援します。さらに、研修の成果とプロセスにおける教員自身の発展を共有する機会を提供します。

なお、本研修は、当センターの中核事業である「“Society5.0 看護”創出拠点ーピア・コンサルテーションを通じて共創する人間中心の健康支援方略ー」事業の一環として開催するものであり、課題解決のプロセスの一部をデータとして蓄積し、社会に発信します。

研修形態は変更しましたが、当センターを利用してくださる皆様とともに、『実践・教育・研究の良循環を通して、山積する社会的課題の解決に看護学の立場から貢献し、国民の健康の増進に資する』という当センターの活動テーマは一貫して変わりません。この時代の変革期に、全国の仲間とともに、自組織や教員自身の課題解決に自立的に取り組む意思のある看護系大学教員の方々のご参加をお待ちしております。

### 2. 主催・実施

看護学教育研究共同利用拠点

千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター

### 3. 研修期間

- ・受講決定より令和4年度末まで。希望により年度単位での更新可能。

《研修スケジュール》

- ・令和4年5月10日（火）：受講決定
- ・令和4年6月7日（火）：オリエンテーション、第1回グループミーティング  
※受講生の人数により、2日間で開催する可能性あり。その場合の追加日は6月9日（木）
- ・令和4年7月～令和5年1月：第2回～第4回グループミーティング

- ・令和5年2月14（火）：成果報告会

※受講生の人数により、2日間で開催する可能性あり。その場合の追加日は2月16日（木）

#### 4. 研修内容（詳細は、別紙1参照）

・研修期間中に4回の研修参加者同士のZOOMによるオンライン・グループミーティングを行い、2月に成果報告会を開催します。

・参加人数に応じ、抱えている課題や職位によってグループ分けを行う予定です。グループミーティングの日程は、勤務の都合等を勘案し、グループごとにメンバーの都合に合わせて決定します。ただし、「初回オリエンテーション・第1回グループミーティング」「成果報告会」は下記の日程で行います。こちらには必ず参加いただけますようお願いいたします。

##### 《初回オリエンテーション・第1回グループミーティング》

開催日：令和4年6月7日（火）

- ・オリエンテーション（全グループ共通）9：15～9：30

- ・第1回グループミーティング（グループにより開始時間が異なる）9：30～17：00の間の2時間程度

※受講生の人数により、2日間で開催する可能性があります。その場合の追加日は6月9日（木）となります。

##### 《成果報告会》

開催日：令和5年2月14（火）

※受講生の人数により、2日間で開催する可能性があります。その場合の追加日は2月16日（木）となります。

・グループミーティングでは、当センター教員および当センターが委嘱した支援教員がファシリテーターとなり、グループメンバーが相互に刺激し、支援し合いながら、自組織や教員自身の課題を俯瞰的に見つめなおす機会を提供します。そして、看護の対象者・看護学生・看護教員・所属組織・地域それぞれの力を発見し、それらが最もよく発揮された調和的な状態（ありたい姿・目標像）を思い描き、その目標に向かって課題を解決する方略を検討し、実行するプロセスを支援します。さらに、研修の成果とプロセスにおける教員自身の発展を共有する機会を提供します。

・研修期間中は、当センター教員および当センターが委嘱した支援教員によるメール、電話等による個別相談が受けられます。

・当センターがこれまでに開発したワークシートやモデルが利用できます。また、他のグループの成果発表の概要は、受講者限定で閲覧可能とします。

#### 5. 受講対象者

解決したい組織課題を持ち、看護の目的（対象者が自ら力を発揮しながら望む場所で生き、生活することを支援する）を共有している看護系大学教員。所属する看護系大学の長（総合大学の場合は学部長や学科長等）の推薦を受けた者とし、職位は問いません。原則として、同一大学から1名の参加とします。ZOOMによるオンライン・グループミーティングに参加できる方に限ります。

## 6. 受講定員

25名。定員を超えるご応募があった場合は、看護系大学としての設置年度、取り組みたいと考えている課題の明確さ及び緊急性、組織全体・社会への波及効果、課題解決に向けた準備状況等を総合的に勘案し、採否を決定させていただきます。

## 7. 応募方法 web 申込みとなります

(1) 本センターホームページ (<https://www.n.chiba-u.jp/center/>) の看護系大学教員向け課題解決型研修申し込みフォームより令和4年4月15日(金)17時までにお申込みください。

(2) お申込みには、併せて「応募者調査票(別紙2)」のご提出が必要となりますので、当センターホームページよりダウンロードの上、必要事項を漏れなく記入してください。

応募者調査票の送付につきましては、PDF添付にて「指定パスワード」を設定してください。

※指定パスワードは、申込フォームに記載されています。

## 8. 決定通知

受講者の採否については、令和4年5月10日(火)までに、応募者本人にメールにて通知させていただきます。

## 9. 研修システム利用料(受講料)

1名につき、80,000円(消費税を含む。)

受講料及び本研修の受講にあたり必要となる設備費等は、派遣施設もしくは受講者の負担とします。

## 10. 修了証書

研修修了者には、千葉大学大学院看護学研究院より修了証書を授与します。

### 11. 注意事項

(1) 申込み受付後の受講料の返金はいたしません。

(2) 大規模な地震・風水害・降雪・事件・事故・疫病等により、研修の開催が困難であると主催者が判断した場合、全てあるいは一部のプログラムを中止することがあります。この場合、受講料の返金はいたしません。

### 12. 個人情報の取り扱い

申込みに際し提出された「応募者調査票」等に記載の個人情報については、看護系大学教員向け課題解決型研修業務及びセンター年報への名簿掲載のために利用し、それ以外の目的に利用することはありません。「“Society5.0 看護” 創出拠点ーピア・コンサルテーションを通じて共創する人間中心の健康支援方略ー」事業の一環として蓄積する、課題解決のプロセスのデータとさせていただく場合は、別途、提供許諾を依頼いたします。

### 13. お問い合わせ先

(1) 本研修内容に関する問い合わせ先

千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター長 和住淑子

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻 1-8-1

T E L : 043-226-2471

F A X : 043-226-2471

e-mail : wazumi@faculty.chiba-u.jp

(2) 上記1) 以外の事務的な問い合わせ先

千葉大学亥鼻地区事務部総務課総務第三係 (センター研修担当)

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻 1-8-1

T E L : 043-226-2464

F A X : 043-226-2382

e-mail : kango-cqi@chiba-u.jp

【以下のような課題を抱えている看護系大学教員に参加をお勧めします (課題と課題解決の方略の例)】

抱えている課題の例	課題解決の方略の例
<p>〔FD 委員会委員長である教授の例〕</p> <p>教員の教育歴がバラバラで、同じ方向を向いていない。少子化で志願者は減少傾向にあり、学生の学力にばらつきがあり、指導に手がかかる。附属病院を持たないため、様々な実習施設に出向く必要があり、多忙のため、教員が疲弊している。このような中、教員が同じ方向を向くためには、どのようなFD 企画が必要か？</p>	<p>市内最大の看護師の供給大学で、地域に貢献できている、多様な学生に対応しながらも国家試験合格率は高く、教員の対応力がある、など、自大学の強みに気づく。これまで、自大学が地域とのつながりの中で積み上げてきた実績を、教員自身が自己評価でき、さらに地域に選ばれる大学であり続けるための方略を共に考えるためのFD を企画することができた。</p>
<p>〔准教授の例〕</p> <p>地方の田舎にある大学で、何処の実習施設に行くにも遠く、教員が欠員になってもなかなか補充がなく、自分の所属する大学にネガティブなイメージしか持つことができない。特に若手の教員がやりがいをもって教育するにはどうすればよいだろうか？</p>	<p>自大学の所在地は、三世代同居率が全国でも高く、祖父母にとっては、孫に入ってほしい身近な大学である、という自大学の評判を思い起こした。このことが、実習で患者さんたちが学生受け持ちを喜んで受け入れてくださることにつながっている。地域住民から愛される看護師を育成してきたという本学の実績に改めて気づいたが、教員たちはこのような成果を必ずしも自覚していないことが課題だと思った。そこで、地域における大学の役割を、地域の中で共有していく活動を、若手教員から発信していきたいと思う。</p>